

多摩区

生田緑地ばら苑

(正面ゲートまで) 小田急線「向ヶ丘遊園駅」南口から 徒歩 13 分
JR 南武線「宿河原駅」から 徒歩 15 分

森の中の秘密の花園



向ヶ丘遊園駅からローズピンクの看板に誘導されて進み、色とりどりのバラに囲まれたばら苑アクセスロードを抜けると、生田緑地ばら苑の正面ゲートに到着。そこから木々の間を7分ほど登ると目の前が開け、様々な品種のバラが豊かな香りを放つ非日常の空間が現れます。生田緑地ばら苑は、小田急向ヶ丘遊園の開園に伴い、園内に整備されたばら苑の存続を求める多くの市民の声に答えて、2002(平成14)年に川崎市が引き継いだものです。生田緑地の中に位置するばら苑は、周囲を多摩丘陵の樹林地に囲まれ、360度の緑のパノラマと清涼な空気が体感できる「秘密の花園」として親しまれ、バラの開花時にあわせて、春と秋の年2回開苑しています。



▲看板

ばら苑の歴史

ばら苑の歴史は古く、開苑は1958(昭和33)年にさかのぼり、当時は「東洋一のばら苑」と賞されました。苑内にはバラ文化の豊かさを示す代表的な四季咲き大輪種(HT・ハイブリッドティー)、四季咲き中輪種(FL・フロリバンダ)や、つるバラ(CL・クライミングローズ)、四季咲き小輪種(Min・ミニチュア)などが植栽されています。2008(平成20)年には開苑50周年を迎え、新たにイングリッシュローズコーナーを整備しました。その後、オールドローズガーデンを新たに整備し、2018(平成30)年の開苑60周年には、日本ばら会の認証を得て、春は805種6,296株、秋は625種2,916株と確認しました。



▶パパメイアン



▶プリンセスミチコ

秋のおすすめ

秋は春に比べると花色が深く、香りも強くなります。おすすめは濃い赤色のバラで、俗に黒バラと呼ばれているバラです。その中でも同じ交配親(クライスラインペリアルとシャルルマルラン)を持つ黒バラ三兄弟(パパメイアン、オクラホマ、ミスターリンカーン)は、ダマスク系の香り。それぞれ独特な香りの違いを楽しんでください。

人の手に支えられて

除草、剪定、誘引(支柱などに植物の枝や茎・つるを結びつける園芸作業)、施肥、ばら苑の美しさは、たくさんの「人の手」によって支えられています。市民ボランティアの皆さんの貢献は、「生田緑地ばら苑」の大きな特色となっています。

「春、秋の開苑が終わるとすぐ次の開苑に向けて作業が始まります。1年を通して除草は必須です。いちばんはじめに除草した花壇は、苑内を一巡する頃には、また雑草に覆われてしまいます。そのため除草作業は延々と続きます。それでも除草後はやり切った満足感でいっぱいです」とボランティアスタッフは話します。

生田緑地ばら苑の入苑料は無料ですが、バラの育成・管理の向上、来苑者へのサービスの向上をめざして、公開期間中、ばら苑募金箱にて「ばら苑募金」を受け付けています。市民の皆さんも、募金という形でばら苑のバラ育成に関わることができます。皆さんも、来苑の際にはぜひご協力を！



▲来苑者は募金で応援

愛情たっぷりに育ったバラを楽しんで

秋の公開期間は10月中旬頃を予定しています。日程が決まり次第、生田緑地ばら苑のホームページや公式ブログでお知らせがあります。公式ブログには、鮮やかなバラ、可憐なバラの写真がいっぱい。公開期間中、毎日現地の様子を発信しています。



公式ブログ

最後に、生田緑地ばら苑スタッフの皆さんからのメッセージです。「この数年、コロナ禍で開苑時に来苑者の方々と接触ができないため残念に思っています。受付作業やボランティアガイドの折に、皆さまにばら苑の素晴らしさを知っていただきたくて努力してきました。これから先いつ元通りになれるか分かりませんが、バラは私たちの愛情で育っています。是非ご覧ください」



▶ばら苑アクセスロード

市民ボランティアグループ「ばら苑アクセスロード花壇ボランティアの会」が管理する川沿いの散歩道。ばら苑までの道中も、バラがいっぱいです。

■生田緑地ばら苑

多摩区長尾2丁目8番1号ほか(旧 向ヶ丘遊園内)

開苑期間中の問合せ

ばら苑管理事務所

電話:044-978-5270

(午前8時30分~午後4時)

開苑期間外の問合せ

川崎市 建設緑政局緑政部みどりの管理課

電話:044-200-2394

(土曜・日曜・祝日を除く、午前8時30分~午後5時)

ホームページ

